

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	市道改良舗装事業（補助）				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-1	他に関連する基本事業	2-6-3	-	-	-	-	所管課係	土木課土木係
目的 （何のために実施するのか）	歩車道を区分した整備を行い、歩行者及び車輛の安全かつ円滑な通行を確保する。							手段 （どのような方法で実現するのか）	車道7.5m、両側歩道2.5mまたは片側歩道2.5mの幅員で、路盤改良及び舗装と排水施設等を、請負工事により効果的・効率的に行う。 なお、本事業は社会資本整備総合交付金（国庫補助）を活用する。					
対象 （誰・何を対象としているのか）	主に幹線道路で、二次改築を必要とする市内路線及び道路利用者。							成果 （どのような効果が得られるのか）	道路状況に応じた、効果的・効率的な改良舗装が進む。					
事業開始時の状況・これまでの経緯	自家用車保有台数の拡大などに伴って交通量が増大し、幹線的な役割を果たす市道における交通の円滑化を図る必要が高まってきたことから、計画的に改良舗装を行っている。													

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額	28,800,000	31,500,000	31,500,000	91,800,000	25,200,000	25,200,000	46,200,000	96,600,000	46,200,000	21,000,000	21,000,000	33,600,000	121,800,000	310,200,000
		予算計上額	28,800,000	18,000,000	25,200,000	72,000,000	25,200,000	25,800,000	32,400,000	83,400,000					0	155,400,000
		実績額	28,347,000	11,740,000	6,095,000	46,182,000	10,548,000	0		10,548,000					0	56,730,000
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額	19,200,000	21,000,000	21,000,000	61,200,000	16,800,000	16,800,000	30,800,000	64,400,000	30,800,000	14,000,000	14,000,000	22,400,000	81,200,000	206,800,000
		予算計上額	20,400,000	12,800,000	16,800,000	50,000,000	16,800,000	17,200,000	22,900,000	56,900,000					0	106,900,000
		実績額	18,800,000	26,600,000	35,300,000	80,700,000	29,900,000	42,300,000		72,200,000					0	152,900,000
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額				0				0					0	0
		予算計上額	110,000	20,000	0	130,000	0		185,000	185,000					0	315,000
		実績額	98,000	50,000	86,000	234,000	32,000	84,000		116,000					0	350,000
	事業費合計	計画額	48,000,000	52,500,000	52,500,000	153,000,000	42,000,000	42,000,000	77,000,000	161,000,000	77,000,000	35,000,000	35,000,000	56,000,000	203,000,000	517,000,000
		予算計上額	49,310,000	30,820,000	42,000,000	122,130,000	42,000,000	43,000,000	55,485,000	140,485,000	0	0	0	0	0	262,615,000
		実績額	47,245,000	38,390,000	41,481,000	127,116,000	40,480,000	42,384,000	0	82,864,000	0	0	0	0	0	209,980,000
	事業費予算の内容		L=200m W=7.5+2.5m(×2)	L=80m W=7.5+2.5m×2	L=100m W=7.5+2.5m×2		L=85m W=7.5+2.5m×2	L=90m W=7.5+2.5m×2	L=105m W=7.5+2.5m×2							
	前年度予算との比較 (増減理由)		－	前年度比 ▲62.5% (事業箇所 の減)	前年度比 136.3% (事業延長 の増)		前年度比 100.0% (前年度と同 額)	前年度比 102.4% (事業延長 の増)	前年度比 129.0% (事業延長 の増)							
	実績との比較 (増減理由)		入札による減	一部単独費で計上していた部分を補助事業で行うこととしたため(延長20m)の増	設計変更により増額となったが、入札による減により、トータルで減となったため。		入札による減	入札による減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：工事実施率				指標の求め方：実箇所/予定箇所								
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：整備率				指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長								
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画				第 7 期 総 合 計 画 計
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100		100	100	100	100	
		実績値	100	100	100		100	100								
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	13.3	23.3	33.3		43.3	53.3	69.3		76.0	82.7	89.3	100.0		
		実績値	13.4	20.0	27.4		33.2	38.9								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている				少し上がっている						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない				あまり上がっていない						
		総合評価				良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 歩道を区分した整備により、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の目標値に達していないが、歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。	判断理由： 交付金による補助事業を行っており、近年は要望している金額に対して減額での交付決定となっており、事業延長等の減が見られるが、事業内容では歩道を区分した整備により、安全かつ円滑な通行が図られているため良好と判断した。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の目標値に達していないが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の計画値に達していないが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 交付金による補助事業を行っており、近年は要望している金額に対して減額での交付決定となっており、事業延長等の減が見られるが、事業内容では歩道を区分した整備により、安全かつ円滑な通行が図られているため良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					現状のまま継続				統合						
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために、今後も継続して事業を行う必要があることから、「現状のまま継続」とした。				R8： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために、今後も継続して事業を行う必要があるが、近年、社会資本整備総合交付金（国庫補助）の配当率が減少し、補助事業での着実な事業進捗が計れないことから、今事業においては、単独事業へ振り替えを行い事業実施を進めていく。補助金等の動向を見極めながら進めていくが、今後においては、市道改良舗装事業（単独）へ「統合」とした。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	市道改良舗装事業（単独）				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-1	他に関連する基本事業	2-6-3	-	-	-	-	所管課係	土木課土木係
目的 (何のために実施するのか)	住民に密着した生活道路の恒久舗装化を進めることにより、安全で快適な生活道路網の維持につなげる。							手段 (どのような方法で実現するのか)	請負工事により、地域に応じた幅員や構造で路盤改良及び舗装と歩道の設置や排水施設等の整備を効果的・効率的に行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	砂利道・簡易舗装道・二次改築を必要とする市内路線及び道路利用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	道路状況に応じた、効果的・効率的な改良舗装が進む。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		自家用車保有台数の拡大などに伴って交通量が増大し、幹線的な役割を果たす市道における交通の円滑化を図る必要が高まってきたことから、計画的に改良舗装を行っている。												

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計		
投入された 事業費の 推移	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額			0				0					0	0	
		実績額			0				0					0	0	
	道費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額			0				0					0	0	
		実績額			0				0					0	0	
	地方債	計画額	273,700,000	407,900,000	390,800,000	1,072,400,000	435,600,000	383,500,000	496,100,000	1,315,200,000	575,200,000	626,100,000	544,200,000	639,900,000	2,385,400,000	4,773,000,000
		予算計上額	280,900,000	319,700,000	364,800,000	965,400,000	435,600,000	524,300,000	565,900,000	1,525,800,000					0	2,491,200,000
		実績額	256,600,000	284,900,000	361,000,000	902,500,000	412,400,000	489,500,000		901,900,000					0	1,804,400,000
	その他	計画額			0				0						0	0
		予算計上額			0				0						0	0
		実績額			0				0						0	0
	一般財源	計画額	15,700,000	73,250,000	91,150,000	180,100,000	673,000	60,490,000	114,900,000	176,063,000	55,200,000	104,500,000	124,600,000	98,500,000	382,800,000	738,963,000
		予算計上額	15,980,000	32,466,000	15,000,000	63,446,000	673,000	647,000	556,000	1,876,000					0	65,322,000
		実績額	14,935,000	29,678,000	801,000	45,414,000	881,000	528,000		1,409,000					0	46,823,000
	事業費合計	計画額	289,400,000	481,150,000	481,950,000	1,252,500,000	436,273,000	443,990,000	611,000,000	1,491,263,000	630,400,000	730,600,000	668,800,000	738,400,000	2,768,200,000	5,511,963,000
		予算計上額	296,880,000	352,166,000	379,800,000	1,028,846,000	436,273,000	524,947,000	566,456,000	1,527,676,000	0	0	0	0	0	2,556,522,000
		実績額	271,535,000	314,578,000	361,801,000	947,914,000	413,281,000	490,028,000	0	903,309,000	0	0	0	0	0	1,851,223,000
	事業費予算の内容		工事：13箇所委託：6箇所 工事延長：L=950m	工事：14箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,325m	工事：14箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,615m		工事：11箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,970m	工事：12箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,941m	工事：11箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,926m							
	前年度予算との比較 (増減理由)		—	前年度比118.6% (事業箇所及び延長の増)	前年度比107.8% (事業延長の増)		前年度比114.9% (事業延長の増)	前年度比120.3% (事業箇所及び物価上昇等による増)	前年度比111.7% (物価上昇等による増)							
	実績との比較 (増減理由)		事業箇所や延長等の精査及び入札による減	事業箇所や延長等の精査及び入札による減	入札による減		入札による減	入札による減								

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：整備率				指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長									
				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100			
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	3.2 3.1	12.3 7.3	22.5 12.4		32.1 18.7	42.6 24.9	53.0		65.4 100.0	77.1	89.1	100.0		
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている				少し上がっている						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない				あまり上がっていない						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 道路状況に応じ、効果的、効率的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰により事業費上昇の影響があるが、道路状況に応じ、効果的な改良舗装を進め、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況に応じた事業箇所の選定など、効果的な改良舗装を進めることができた。	判断理由： 物価上昇等の影響により事業効率率はあまり上がっていないが、道路の状況に応じて事業箇所を変更しており、効果的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られているため、良好と判断した。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況や住民の要望等を考慮しながら、適切に事業箇所の選定を行い、効果的な改良舗装を進めることができた。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況や住民の要望等を考慮しながら、適切に事業箇所の選定を行い、効果的な改良舗装を進めることができた。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況や住民の要望等を考慮しながら、適切に事業箇所の選定を行い、効果的な改良舗装を進めることができた。	判断理由： 物価上昇等の影響により事業効率はあまり上がっていないが、道路の状況に応じて事業箇所を変更しており、効果的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られているため、良好と判断した。	自己分析： 自己分析： 自己分析： 自己分析：	自己分析： 自己分析： 自己分析： 自己分析：	自己分析： 自己分析： 自己分析： 自己分析：	判断理由： 判断理由： 判断理由： 判断理由：		
	今後の方向性						現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために「現状のまま継続」とした。						R8： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために「現状のまま継続」とした。						R10：	

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	街路灯（LED）整備更新事業				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-1	他に関連する基本事業	2-3-1	-	-	-	-	所管課係	土木課土木係
目的 (何のために実施するのか)	夜間において道路状況、交通状況を的確に把握するため良好な視覚環境を確保し、道路交通の安全、円滑化を図る。 また、老朽化に伴う街路灯の更新を進める。							手段 (どのような方法で実現するのか)	請負工事により、道路照明設置基準に準じ街路灯の設置及び更新を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	主要設置及び更新箇所の、街路灯を必要とする市内路線及び道路利用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	主要箇所に街路灯を設置及び更新することにより、夜間の交通事故防止対策や防犯及び老朽化対策にも繋がる。 また、LED化により、電気の使用量が減り温室効果ガスの排出削減に繋がる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		第6期総合計画では、交差点や横断歩道、橋梁、公共施設に接続する道路等において、94基のLED街路灯の設置及び更新事業を進めてきている。 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全・円滑化が図られ、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。 しかし、近年、街路灯の灯柱や灯具の老朽化に伴い、街路灯本体やランプ等の更新が必要であることから、設置事業・更新事業の統合を行い事業を進めていくこととした。												

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0	20,000,000	20,000,000		40,000,000					0	40,000,000
		予算計上額			20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	60,000,000					0	80,000,000
		実績額		12,300,000	18,900,000	31,200,000	19,300,000	19,500,000	38,800,000					0	70,000,000
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	一般財源	計画額	13,000,000	13,000,000	39,000,000			13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	52,000,000	104,000,000
		予算計上額	13,000,000	13,000,000	0	0		0	0					0	26,000,000
		実績額	12,320,000	9,000	12,404,000	60,000	80,000		140,000					0	12,544,000
	事業費合計	計画額	13,000,000	13,000,000	39,000,000	20,000,000	20,000,000	13,000,000	53,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	52,000,000	144,000,000
		予算計上額	13,000,000	13,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	60,000,000	0	0	0	0	0	106,000,000
		実績額	12,320,000	12,309,000	18,975,000	19,360,000	19,580,000	0	38,940,000	0	0	0	0	0	82,544,000
	事業費予算の内容		LED街路灯 12基 (新設 2基 更新 10 基)	LED街路灯 12基 (新設 3基 更新 9基)	LED街路灯 20基 (新設 2基 更新 18基)		LED街路灯 20基 (更新 20 基)	LED街路灯 20基 (更新 20 基)	LED街路灯 20基 (更新 20 基)						
	前年度予算との比較 (増減理由)	—		前年度と同額	前年度比153.8% (更新基数の増) 緊急自然災害防止対策事業債を活用し、事業促進を図った。		前年度と同額	前年度と同額	前年度比102.5% (物価・人件費の増)						
	実績との比較 (増減理由)		入札による減	入札による減	入札による減		入札による減	入札による減							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：設置率				指標の求め方：設置累計基数/7期総計の計画基数									
				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
			実績値	100	100	100		100	80								
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	10	20	30		40	50	60		70	80	90	100			
		実績値	10	20	37		53	67									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)						達成されている				ほぼ達成されている					
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)						上がっている				上がっている					
		事業の効率性 (事業費に対する成果)						少し上がっている				少し上がっている					
		総合評価						良好である				良好である					
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。	自己分析： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。	自己分析： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られたことに加え、昨年度より起債（緊急自然災害防止対策事業債）を活用してきたことにより、適切な財源の確保及び事業促進を図ってきた。	判断理由： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られた。また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られ、灯具のみ更新する箇所を増やすことにより、事業進捗を図っているため、良好と判断した。	自己分析： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られたことに加え、起債（緊急自然災害防止対策事業債）を活用することにより、適切な財源の確保及び事業促進を図ってきた。 減の理由としては、予算当初灯具の交換のみの予定でしたが、発注し、受注業者に現地確認してもらったところ、灯具交換のために灯具以外の部品交換が必要な箇所があると判明したため、費用がかさんだことにより更新基数減となった。	自己分析： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られたことに加え、起債（緊急自然災害防止対策事業債）を活用することにより、適切な財源の確保及び事業促進を図ってきた。	判断理由： 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られた。また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られ、灯具のみ更新する箇所を増やすことにより、事業進捗を図っているため、良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
			今後の方向性						現状のまま継続				現状のまま継続				
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られているため、今後も継続して使用し、夜間の道路交通の安全、円滑化を図るためにも街路灯の設置は必要と考えるため「現状のまま継続」とした。 また、緊急自然災害防止対策事業債などの起債を活用し、老朽化による倒壊等も起こさないよう事業促進を図る必要がある。				R8： LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られているため、今後も継続して使用し、夜間の道路交通の安全、円滑化を図るためにも街路灯の設置は必要と考えるため「現状のまま継続」とした。 また、緊急自然災害防止対策事業債などの起債を活用し、老朽化による倒壊等も起こさないよう事業促進を図る必要がある。				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：年間バトロール距離	指標の求め方：年間バトロール実施距離
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故件数	指標の求め方：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故発生件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標1 (単位/Km)	計画値 1,434	1,434	1,434		1,434	1,434	1,434		1,434	1,434	1,434	1,434		
			実績値 1,434	1,434	1,434		1,434	1,434								
		成果指標1 (単位/件)	計画値 0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		
			実績値 0	1	0		1	0								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない				上がっていない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない						
		総合評価				問題がある				問題がある						
			自己分析： 老朽化が激しく 更なるパトロー ル強化が必要と なる。	自己分析： 道路施設や河川 施設の老朽化は これまでと変わ らず進んでいく ためこれまでと 同様のパトロー ルが必要である 。 公園施設につい ては、設置され てから30年以上 経過した遊具が 多く、毎年行っ ている点検の結 果も良好とはい えない状況であ り、さらに遊具 使用中の事故も 起きたため、パ トロール強化が 必要となる。	自己分析： 道路施設や河川 施設の老朽化は これまでと変わ らず進んでいく ためこれまでと 同様のパトロー ルが必要である 。 また、昨年同様 公園施設につい ては、設置され てから30年以上 経過した遊具が 76箇所あり令和 6年度に予算化 を行い6箇所を 実施する予定で あるが、事故防 止の観点から引 き続き公園内の パトロールを 行っていくた い。	判断理由： 活動指標として は達成されてい るが、事業成果 としては、事故 が1件あったこ とから「問題が ある」とした。	自己分析： 道路施設や河川 施設、公園施設 の老朽化はこれ までと変わらず 進んでいくこと や、道路施設の 雨水樹の蓋が不 安定だったこと による歩行者の 事故が1件発生 していること、 また、舗装の破 損による通行障 害や事故の恐れ もあることから 引き続きパト ロールが必要で ある。	自己分析： 道路施設や河川 施設の老朽化は これまでと変わ らず進んでいく ためこれまでと 同様のパトロー ルが必要である 。 公園施設につい ては、毎年行っ ている点検の結 果も良好とはい えない状況であ り、令和4年に 事故が起きてい る事もあること から、今後は維 持管理に起因す る事故等が起き ないよう、業者 による点検の 他、日常的な直 営のパトロール が必要である。	判断理由： 活動指標として は達成されてい るが、事業成果 としては、事故 が1件あったこ とから「問題が ある」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 道路施設等パトロールは、いかなる施設も経年劣化は避けられず、劣化は日々進んでいくため、市民の方々が安全に利用してもらうために必要であるため、引き続き実施していくことから「現状のまま継続」とした。				R8： 道路施設等パトロールは、施設の経年劣化は避けられず、劣化は日々進んでいくため、市民の方々が安全に利用してもらうために必要であるため、引き続き実施していく必要があることから「現状のまま継続」とした。				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名					道路修繕事業	事業期間	令和3年度～令和12年度								
事業性質区分		新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5-1-2	他に関連する基本事業	5-1-1	—	—	—	—	所管課係	土木課維持係
目的 (何のために実施するのか)		幹線道路などの交通量が多い路線で、道路の老朽化による舗装の凹凸やひび割れなどにより車の走行や人の通行に支障が出るような路線の舗装を打換え、道路交通の利便性を確保する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	この事業を行うにあたり、公共施設等の適正管理に係る地方債（充当率 90%、交付税算入率 30%）と過疎債（充当率 100%、交付税算入率 70%）を現況や既設の路盤構成を考慮し、健全度の低い幹線道路を優先に舗装の修繕工事を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)		自動車、歩行者							成果 (どのような効果が得られるのか)	振動が少なく自動車を走行することができるので、市内外の道路アクセスを快適にし、地域間交流の促進につながる。歩道についても人が安全に通行することができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯			平成26・27年で行った路面性状調査の結果に基づいて、車道のオーバーレイ工法等による事業の促進を図り、土木係で行う歩道改築と一体となった事業を進める。												

【DO】

実績

(単位：円)

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地方債		計画額	18,000,000	35,000,000	47,000,000	100,000,000		51,000,000	58,000,000	109,000,000	57,000,000	55,000,000	55,000,000	58,000,000	225,000,000	434,000,000
			予算計上額	20,500,000			20,500,000				0					0	20,500,000
			実績額	19,420,000			19,420,000				0					0	19,420,000
	その他		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	一般財源		計画額	2,000,000			2,000,000				0					0	2,000,000
			予算計上額	50,000			50,000				0					0	50,000
			実績額	20,000			20,000				0					0	20,000
	事業費合計		計画額	20,000,000	35,000,000	47,000,000	102,000,000	0	51,000,000	58,000,000	109,000,000	57,000,000	55,000,000	55,000,000	58,000,000	225,000,000	436,000,000
			予算計上額	20,550,000	0	0	20,550,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,550,000
			実績額	19,440,000	0	0	19,440,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,440,000
	事業費予算の内容			東1線L=190m	土木係で予算化し事業実施。	土木係で予算化し事業実施。		事業費予算なし	事業費予算なし	事業費予算なし							
	前年度予算との比較 (増減理由)			-	-	-		-	-	-							
	実績との比較 (増減理由)			入札による減	-	-		-	-								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：修繕延長	指標の求め方：修繕延長
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：道路修繕事業進捗率	指標の求め方：整備延べ延長 / 計画延長

			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/m)	計画値 190	440	610	—	700	720	920	—	900	700	700	750	—	
		実績値	190	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	2.9	9.6	18.8	—	29.3	40.2	54.0	—	67.6	78.2	88.7	100.0	—	
		実績値	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)														
		事業の効率性 (事業費に対する成果)														
		総合評価														
			自己分析： 初年度は、補修 工法の変更から 過疎債を活用 し、車道のみの 打換え事業を 行ったが、今後 は、土木係で行 う歩道改築と一 体的に整備を行 なう方が、事業 の効率性が計れ るため、土木係 の道路事業の中 で進めることに する。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	判断理由： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	判断理由： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	判断理由： 土木係の市道改 良舗装事業（単 独）にて評価。	
		今後の方向性				現状のまま継続				統合						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。				R8： 初年度に、補修工法の変更から過疎債を活用し、車道のみの打換え 事業を行ったが、それ以降は、土木係で行う歩道改築と一体的に整 備を行なう方が、事業の効率性が計れるため、土木係の市道改良舗 装事業（単独）にて事業を行っていることから、今後、本事業にて 実施の予定がないことから統合とする。				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	橋梁長寿命化修繕事業				事業期間	令和3年度～令和12年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5-1-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	土木課維持係
目的 (何のために実施するのか)	道路交通の安全を確保する上で、これまでの事後的な対応から計画的かつ、予防的な対応に転換を図り、長寿命化によるコスト縮減を図る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	平成24年度に作成した橋梁長寿命化計画に基づき、5年ごとに点検調査を行い健全度の低い橋を優先的に修繕工事を行い維持管理を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市道の全橋梁							成果 (どのような効果が得られるのか)	落橋等の事故が未然に防止され、道路交通の安全が確保される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		平成25年度に橋梁長寿命化計画を策定し、令和6年度まで10年の計画に基づき、橋梁修繕工事を実施してきたが、制度が変わり令和5年度の実施事業から新工法の検討が必要となったため令和4年度に橋梁長寿命化計画の見直しを行い、新たな計画に基づき事業を実施しております。												

【DO】

実績

(単位：円)

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国	費	計画額	46,398,000	64,950,000	21,480,000	132,828,000		31,800,000	32,880,000	64,680,000	46,200,000	13,200,000	23,100,000	27,600,000	110,100,000	307,608,000
			予算計上額	48,300,000	55,900,000	18,300,000	122,500,000	12,826,000	30,900,000	43,162,000	86,888,000					0	209,388,000
			実績額	48,300,000	55,258,000	15,851,000	119,409,000	11,192,500	28,943,000		40,135,500					0	159,544,500
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地方債		計画額	31,900,000	43,300,000	14,300,000	89,500,000		21,200,000	21,900,000	43,100,000	30,800,000	8,800,000	15,400,000	18,400,000	73,400,000	206,000,000
			予算計上額	38,500,000	39,900,000	14,000,000	92,400,000	8,317,000	21,500,000	29,400,000	59,217,000					0	151,617,000
			実績額	35,700,000	14,400,000	13,849,000	63,949,000	8,800,000	29,800,000		38,600,000					0	102,549,000
	その他		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	一般財源		計画額	42,000		20,000	62,000			20,000	20,000					0	82,000
			予算計上額	1,053,000	65,000	38,000	1,156,000	57,000	79,000	82,000	218,000					0	1,374,000
			実績額	44,871	22,444,484		22,489,355	352,000	86,000		438,000					0	22,927,355
	事業費合計		計画額	78,340,000	108,250,000	35,800,000	222,390,000	0	53,000,000	54,800,000	107,800,000	77,000,000	22,000,000	38,500,000	46,000,000	183,500,000	513,690,000
			予算計上額	87,853,000	95,865,000	32,338,000	216,056,000	21,200,000	52,479,000	72,644,000	146,323,000	0	0	0	0	0	362,379,000
			実績額	84,044,871	92,102,484	29,700,000	205,847,355	20,344,500	58,829,000	0	79,173,500	0	0	0	0	0	285,020,855
	事業費予算の内容		設計委託1橋 橋梁点検12橋 橋梁修繕工事1橋	設計委託1橋 橋梁点検70橋 橋梁修繕工事1橋 橋梁長寿命化計画策定	橋梁修繕工事2橋			設計委託2橋	設計委託1橋 橋梁修繕工事1橋	設計委託1橋 橋梁点検12橋 橋梁修繕工事2橋							
	前年度予算との比較 (増減理由)		-		事業費の増	事業費の減		事業費の減	事業費の増	事業費の増							
	実績との比較 (増減理由)		入札による減	入札による減	入札による減			入札による減	増額の設計変更を行ったことによる増								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：修繕橋梁数	指標の求め方：修繕橋梁数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：計画期間における修繕橋梁進捗率	指標の求め方：修繕橋梁延べ数 / 修繕計画数

				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/橋)	計画値	1	0	2		0	1	2		1	1	2	2		
			実績値	1	0	2		0	1								
		成果指標 1 (単位/%)	計画値	8.3	8.3	25.0		25.0	50.0	50.0		58.3	66.7	83.8	100.0		
			実績値	7.1	7.1	25.0		25.0	50.0								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
				自己分析： 補助金も確保され、計画通り事業を進めることができた。また、令和5年度実施事業より、制度の変更があり、修繕工事には、新工法の検討が必要となる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。橋梁長寿命化計画を令和3年度、令和4年度の点検結果をもとに更新したため、令和6年度からは新計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	判断理由： 補助金の制度も令和2年度に変更となり要望額とほぼ同額の事業実施が可能となっていることから事業の進捗に変動がなくなったため、計画通り事業を進めていくことが出来たため「良好である」とした。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	判断理由： 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、計画通り事業を進める事が出来た為「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 令和4年度に計画変更を行い、令和6年度より計画変更を行った事業が実施されるが、新工法の検討が盛り込まれたことにより事業費は増額となっていく傾向となる。しかし、安全な交通を確保するためには、橋梁の修繕は必要不可欠であるため「現状のまま継続」とした。				R8： 人件費や資材費の高騰により、事業の実施に係る費用は増加してきておりますが、国庫補助金など、財源を確保しながら事業を実施してきております。今後においても、5年ごとの定期点検結果を踏まえつつ、長寿命化修繕計画に基づき、効率的な修繕を行っていく必要がありますので、「現状のまま継続」とした。				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名					事業期間	令和3年度 ～ 令和12年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5－1－3	他に関連する基本事業	－	－	－	－	－	所管課係	土木課維持係	
目的 (何のために実施するのか)	冬期間の交通障害をなくし市民の安全な生活を守る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	深夜の1時時点で、早朝7時頃に10cm程度以上積雪すると予想される場合、業者委託により道路及び歩道の除排雪を機械並びに人力で行う。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市道及び生活道路							成果 (どのような効果が得られるのか)	交通障害を防止でき、冬期間の市民の生活道路が確保される。						
事業開始時の状況・これまでの経緯		平成20年度より砂川道路管理協同組合に委託し、コストの縮減及び業務の効率化を図っている。													

【DO】

実績

(単位：円)

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額	22,336,000	49,220,000	48,996,000	120,552,000	21,724,000	29,094,000		50,818,000					0	171,370,000
	道	費	計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地方債		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	その他		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	一般財源		計画額	298,397,000	300,000,000	300,000,000	898,397,000	270,196,000	270,196,000	270,196,000	810,588,000	270,196,000	27,019,600	270,196,000	270,196,000	837,607,600	2,546,592,600
			予算計上額	298,397,000	248,397,000	259,501,000	806,295,000	270,196,000	289,978,000	296,437,000	856,611,000					0	1,662,906,000
			実績額	327,539,333	335,601,588	303,557,660	966,698,581	298,565,549	341,156,472		639,722,021					0	1,606,420,602
	事業費合計		計画額	298,397,000	300,000,000	300,000,000	898,397,000	270,196,000	299,290,000	270,196,000	839,682,000	270,196,000	27,019,600	270,196,000	270,196,000	837,607,600	2,575,686,600
			予算計上額	298,397,000	248,397,000	259,501,000	806,295,000	270,196,000	289,978,000	296,437,000	856,611,000	0	0	0	0	0	1,662,906,000
			実績額	349,875,333	384,821,588	352,553,660	1,087,250,581	320,289,549	370,250,472		690,540,021	0	0	0	0	0	1,777,790,602
	事業費予算の内容			除排雪等委託料	除排雪等委託料	除排雪等委託料		除排雪等委託料	除排雪等委託料	除排雪等委託料							
	前年度予算との比較 (増減理由)			-	排雪費の減	人件費や燃料費の増		人件費や燃料費の増	人件費や燃料費の増	人件費や燃料費の増							
	実績との比較 (増減理由)			降雪量の増	降雪量の増	降雪量の増		排雪作業の増	排雪作業の増								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：除排雪委託費	指標の求め方：その年の降雪量の多さによるところもあるので計画値は設定せず実績管理のみとする
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：道路の通行を確保した路線延長	指標の求め方：除雪路線延長

				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値	298,397	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000	300,000		
		実績値	349,875	384,821	352,553		320,289	370,250									
	成果指標 1 (単位/Km)	計画値	233	233	233		233	233	233		233	233	233	233			
		実績値	233	233	233		235	236									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				上がっている						
		総合評価					良好である				良好である						
			自己分析： 昨年以上の大雪だったが、排雪の回数を増やすことや、堆雪場所の確保などの対応により、大きな交通障害も起こさず市道の円滑な通行をおおむね確保できた。排雪及び雪取り費用が増大したため、全体の除排雪費用が増大した。	自己分析： 昨年より降雪量は少なかったが、12月の降雪量が昨年の1.7倍となり緊急的な排雪作業も必要となり、また、同様に堆雪場所を確保するための費用が増大したため、全体の除排雪費用が増大した。	自己分析： 昨年に引き続き7mを超える降雪量となった。11月の降雪が多かったが降雪時期が早く融雪が進んだため、降雪量に対して除雪費用は昨年より減となった。	判断理由： 人件費や燃料費など増加傾向であるが、道路及び雪捨て場など搬入路の確保に重点を置き、効率的な除排雪作業を行うことが出来たため「良好である」とした。	自己分析： 除雪延長については、歩行者や車両の通行状況等を考慮し増となった。昨年より降雪量は少なく約6mだったため、除雪費用は昨年より減となった。	自己分析： 除雪延長については、歩行者や車両の通行状況等を考慮し増となった。12月の降雪量が一番多く、1月～3月にかけて徐々に降雪量が少なくなってきた状況であり、総降雪量は約5.5mで、昨年より少ない状況でしたが、日中の気温上昇や降雨等の関係で路面整生等の作業が多くあったこともあり、除雪費用は昨年より増加した。	自己分析： 判断理由： 人件費や燃料費など年々上昇しており、委託費は増加しているところですが、近年は、日中に気温が高い日が多くなってきたり、路面状況の悪化により、路面整正等の作業が必要な状況が多くなっていますが、交通障害が起きないよう、適切な作業を心がけてきており、状況に応じた除排雪作業を行うことができたため、「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続							
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 高齢化により間口除雪が増えており、今後も堆雪場所の確保等は、降雪量にもよるが継続的に必要と考えている。また、除排雪作業を行う人材が不足していく傾向でもあり、人材確保が課題となっている。冬期間の円滑な通行を確保するため除排雪事業は必要であるため「現状のまま継続」とした。				R8： 適切な除排雪作業は、緊急車両の通行ルートを確保するうえでも、救急車等の緊急車両が円滑に通行できるようにしたり、一般車両等の事故防止の観点からも欠かせないものと考えます。オペレーターの人材不足という課題もありますが、市民生活にかかせない重要な事業でありますので、「現状のまま継続」とした。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	雪害機械更新事業				事業期間	令和3年度～令和12年度							
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-3	他に関連する基本事業	--	--	--	--	所管課係	土木課維持係
目的 (何のために実施するのか)	冬季間の交通の安全を図るための除雪事業で使用する除雪機械（直営車両）を計画的に更新する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	老朽化した除雪機械を国庫補助事業を利用して、計画的に更新する。				
対象 (誰・何を対象としているのか)	補助事業の対象となる除雪機械（直営車両）							成果 (どのような効果が得られるのか)	除雪事業の委託に車両経費の安価な直営車両を使用することにより委託費が軽減される。				
事業開始時の状況・これまでの経緯		補助対象基準により購入から15年以上経過した車両につき、更新要望を随時行っている。											

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額	0		16,000,000	16,000,000				0					0	16,000,000
		予算計上額	0			0				0					0	0
		実績額	12,849,000			12,849,000	5,896,000	25,633,000		31,529,000					0	44,378,000
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額	0		5,600,000	5,600,000				0					0	5,600,000
		予算計上額	0			0				0					0	0
		実績額	24,100,000			24,100,000	21,000,000	36,500,000		57,500,000					0	81,600,000
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	0		3,400,000	3,400,000				0					0	3,400,000
		予算計上額	0			0				0					0	0
		実績額	66,000			66,000	603,116	567,000		1,170,116					0	1,236,116
	事業費合計	計画額	0	0	25,000,000	25,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000,000
		予算計上額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実績額	37,015,000	0	0	37,015,000	27,499,116	62,700,000	0	90,199,116	0	0	0	0	0	127,214,116
	事業費予算の内容		ローリー除雪車1台国庫補助の結果が出るのを待ったため当初予算0。				除雪ドーザー1台国庫補助の結果が出るのを待ったため当初予算0	ロータリー除雪車1台国庫補助の結果が出るのを待ったため当初予算0								
	前年度予算との比較 (増減理由)															
	実績との比較 (増減理由)		国庫補助の対象となったことによる増(6月補正:53,757千円、3月補正△16,742千円)				国庫補助の対象となったことによる増(6月補正:30,800千円、3月補正△3,300千円)	国庫補助の対象となったことによる増(6月補正:62,954千円、3月補正△254千円)								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：各年度の機械更新台数				指標の求め方：各年度の機械更新台数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：各年度の機械更新率				指標の求め方：各年度の機械更新台数 / 各年度の機械更新計画台数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/台)	計画値 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績値 1				1	1								
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績値 100				—	—								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない						
		総合評価				極めて良好である				良好である						
			自己分析： 15年以上経過した車両を申請しても採択が確実ではないため、粘り強く申請していく。	自己分析：	自己分析：	判断理由： 当初の計画通り車両の更新は、進んでいるため「極めて良好である」とした。	自己分析： 更新が必要な車両を除雪作業に支障をきたすことがなく、また、費用については交付金を活用し更新できたため、事業の目的を達成している。	自己分析： 老朽化し、更新が必要な車両を除雪作業に支障をきたすことなく、交付金を活用しながら購入できた為、事業の目的を達成している。	自己分析：	判断理由： 除雪機械の適切な時期での更新は、効率的な除排雪作業に繋がるものであり、必要な時期に、適切な財源を確保しながら行えていることから「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析													
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 現在のところ、道路管理協同組合に委託しており、民間各社での車両の不足は生じていないが、市内の除排雪作業に影響が出ないよう継続的な更新と場合によっては増車も必要であることから「現状のまま継続」とした。				R8： 全国的な問題でもあります。除雪機械のオペレーター不足という観点からも、直営車両の求められるニーズというのは高まってきていると感じており、適切な時期での機械の更新の計画は、オペレーターの安心安全な職場環境にも繋がり、オペレーターの確保という観点からも必要であると考えことから「現状のまま継続」とした。				R10：					